



名古屋いのちの電話



Photo 文珠 幹夫

さんばつ

まえだ ちえ

さんばつやにいった

さんばつやのおっちゃんか

いもうとに

たかだみずえにするいうた

おとうとに

しみずけんたろうにするいうた

わたしにはなにもいえへん

おっちゃんきらいじゃ

あたまがさむい

きれへんかったらよかった

(「一年一組せんせいあのね」より)

電話相談でいのちが救えますか・・・

聖公会聖マルコ教会牧師

塚 田 道 生

「あなたはいのちの電話に関わっておられるそうですね。」と、先日ある会合の席で久しぶりに会った知人が声をかけてきました。「自分から死にたいという人が電話をかけてくるものですかね。電話相談で自殺が防げるとはどうも思えないんですよ。」とさらにたたみかけるように答えを迫ってきました。私も黙っているわけにもいかず反論しました。「電話をかけてくる人が必ずしも、今から自殺しますと言ってくる人とは限りませんね。むしろそこまで思い詰める前に電話をかけてきて、そこで解決することが望ましいし、ほとんどの場合は誰かにきいてもらい、自殺を考える前に解決し、自殺が予防されているのではないですか。」彼はいっぱい飲んだせいか、なおもしつこく議論をふっかけてきました。「電話をしなくても近くの人に話すか、専門家に相談すれば良いことで、素人が電話をきいて分かるものではないよ。」彼の言いたいことが分かってきました。相談事業の専門家を自負する彼には、自殺防止などということは素人にできるものでないし、危ないことだという持論があったのです。「でもね、身近に相談にのってくれる人がいないというのが現実で、自殺に至る前の段階で、人生のいろいろな悩みや苦しみを誰かにきいてもらいたいけれど、他人にとってはつまらない話で、この忙しい時に真剣に人の話などきいてくれないでしょうね。毎日、たえまなく電話がかかってくるのがそのことを証明していますよ。」私も話しているうちに段々と頭に血がのぼってきました。「それにね、素人と馬鹿にするけれど、専門家が必ず解決できるとは限らないし、むしろ素人であることを自覚して、精神科医のような診断をするのでなく、相手の気持ちになって話を

大きくことに徹することで、良い結果が得られるのです。このことは相談員が研修で教えられていますし、実際の場面でいやというほど知らされていることです。交通事故が増えれば、信号や標識を増やして事故防止の対策を立てるじゃないですか。いのちの電話だけで自殺がなくなるということではなく、いろいろな機関が相互に助けあって進めていく課題ではないですか。」彼はさらに絡んできました。「思いがけず事故に遭うのと、自分から死ぬのとでは違うし、交通事故の数は多いから。」私は怒りを押えながら「とんでもない、社会の歪みの中で押しつぶされ、悩みながら死んでいく人の命は軽いのですか。それに、自殺者の人数は交通事故の二倍以上になっているのですよ。」私の声が大きくなったのか、まわりの人がいつの間にか話題を変えていました。

思えば私も以前は「いのちの電話」について、この知人と似たような認識しか持っていませんでした。八年程前に名古屋にも「いのちの電話」を設立したいという話を聞いたときには、電話で何ができるのだろうかとか、この豊かな時代に電話で悩みごとを相談してくる人が果しているのだろうかとか疑問に思ったものです。五年程前に、「東京いのちの電話の斉藤先生をお呼びするので話を聞きに来ませんか」と誘いを受けました。そこで「いのちの電話」の生い立ちや意味、役割、そして東京での実情をお聞きして、初歩から学ぶことができました。新しいことを始め、その実績が評価され、社会的に認められ、働きの中身を理解してもらうまでには大変な努力と時間が必要ですし、たえず広報活動をしなればならないと痛感いたします。

それにしても、いま考えるとよく名古屋に「いの

ちの電話」を設立することができたものだと思います。金も、人も、場所もなんのあてもなく、どうするのだろうと悲観的になっていると、「二百万都市名古屋なら一万円寄付する人が千人位はいるでしょう」という楽観論を信じて進んできてしまいました。組織の運営としては全く甘い判断ですが、しかし、この夢を追い求めるような、「いのちの電話」の設立への強い願いが、名古屋の人たちの重い腰を上げさせ、設立へと動かしてきたのです。世の中には殊勝な人たちがいるもので、長い間小さな火種を消さないように守り続け、少しずつ火種を広げ、とうとう炎を大きく燃え上がらせたのです。この人たちの蔭の力を忘れることはできませんし、敬意を表します。そして、この希望を抱いて一歩でも進み続ける精神は今では「名古屋いのちの電話」全体の精神として生かされ、とても無理だと諦めてしまいそうな困難な壁を次々と乗り越えてくることができました。まず場所が備えられ、多くの優秀なボランティアが集まり、たえず赤字に追いかけてながらも何とかお金も与えられました。この実績が自信となり、未知へのチャレンジ精神と情熱となって、いろいろな困難を乗り越えさせる力になっていることに驚かされます。この働きが社会的にも認められ、いろいろな形で協力してくださる人の環がさらに大きくな

るよう願っています。

さて、「名古屋いのちの電話」はこの夏には開局三周年を迎え、利用者の層も広がり、ますます使命の重要さが増しています。何度かけても通じないということでは、緊急な場合に役に立たず、「いのちの電話」の本来の使命を果たせません。そこで、相談電話を二台に増設し、そのための室内改装工事と防音工事をしようと計画していました。ところで資金はどうするかと頭を悩ましていましたが、幸い財団法人丸紅基金からの助成金をいただくことができ、着工することになりました。四月には二台の電話で今まで以上に多く相談を受けることができるようになります。十一月に研修を終え、認定を受けた第三期生が加わり、相談員も増え、内容も一層充実していくことと思います。

また、今春にはボランティア相談の第四期生を募集する準備を始めています。深夜も休まない二十四時間体制にするには、まだ相談員が足りません。相談員は一年間の研修が必要で、しかも研修費を自己負担し、その上でボランティアとして活動していただくという大変な負担をおかけしています。このことから、いのちを大切にする相談員の真剣な姿勢を分かっていただけのことと思います。「いのちの電話」にとってボランティアは大切な宝です。ボランティアに加わってくださる人、また、この人たちを支えてくださる方がさらに増えますように願っています。



(名古屋いのちの電話理事・運営委員長)

4月から2台の電話で今まで以上の相談を……052 (9 7 1) 4 3 4 3



—— 狐狸庵先生大いに語る ——

去る11月17日、遠藤周作氏を講師に招き、名古屋市公会堂において、「名古屋いのちの電話公開講演会」が開催されました。会場には、耳の不自由な方々も含め約1000人の方々が集まり、笑いとユーモアを随所に織り込みながら、現実そして人間存在を鋭く問いかける遠藤周作氏の講演に、時のたつのも忘れて聴き入っていました。

多くの方々の協力をえて

名古屋市教育委員会、中日新聞、東海テレビ、NHK厚生文化事業団に後援していただきました。新聞、テレビで紹介していただいたあとには、「講演会のチケットがほしいけれど、どうしたら？」という問い合わせが事務局に相次ぎました。

県内の教会の方々にもご協力いただきました。「名古屋いのちの電話」に関するボランティアもチケットをわけあい、一人でも多くの方々に参加していただきたいと働きかけました。

こうして、様々な協力をえて、講演会の当日を迎えました。



笑いながら、はっとさせられる

緩急自在の狐狸庵先生

11月17日は穏やかな小春日和でした。会場となった名古屋市公会堂は、煉瓦作りの近代西洋建築で、昭和5年に建てられました。遠藤周作氏は大正12年生まれですから、氏とほぼ同時代を過ごしてきたと言えましょうか。

遠藤氏のお話はユーモアたっぷり、ほんとうに楽しいものでした。ゲラゲラと笑ってしまうのですが、ふと考えさせられます。おもしろおかしくお話くださるなかに鋭い作家の目、感性があります。「これは笑ってばかりはいられない」と思った途端にこれまた吹き出すようなユーモア。緩急自在の講演でした。

講演も終わり、会場を後にしたその正面に、照明に美しく浮かび上がる噴水が印象的でした。

ご多忙のなか、講演をお引受けいただいた遠藤周作先生に心からお礼申し上げます。

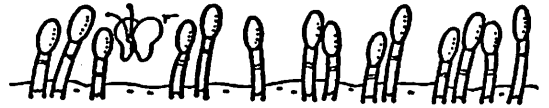
また、講演会に参加いただいた皆様、いろいろご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。



ぽろんあまひるば

わたしたち 3 期生 38 名が新しく仲間に加わりました。

よろしくお願ひします。



やわらかい気持ちで

Y. M.

「リーンリーン」電話の音が鳴る。ひと呼吸し、やわらかい気持ちになっているか確め受話器をとるようになっている。しかし、だんだんと硬くなっていくのを感じる。受話器を置くと同時に「フー」と深いため息、価値観の違いは当然と頭で分かっているにもかかわらず、つい説教じみてしまう。相手の「苦しさ、寂しさ、つらさ」に踏み止どまれない自分の情けなさや難しさを思わされる。やわらかい気持ちで、やわらかい言葉かけをしてあげられるのは、いつの日かな！

かけ手と受け手の接点を大切に

A. K.

今回電話相談員として認定を受けました。認定証を手にし「よし、これでいこう」と思いました。ところが相談を終えた後感じるのは「あれでよかったかな?」「もう少し違う対応があっかも?」と振り返るのは毎回のことです。これも個々に違う価値観、生き方が存在するからでしょう。「はい、いのちの電話です」「あのう、ちょっといいですか」最初の一声からその人らしさを感じ取れます。かけ手、受け手、それぞれに交錯した一つの接点を大切に、自分も育ちたいと考えています。

かみ ひと
自も他も生きている

T. N.

電話相談員を志願した動機は、「世のため、人のため微力ながらも役に立ちたい」ということでした。しかし、様々な研修を経るうちに、それだけでは気負い過ぎて続かないと私は気づきました。

認定式で中堀先生がお話になった「リフレッシュアップに心がける」という言葉に接した時、自己研鑽の必要性を改めて感じました。

〈今ここに自も他も生きている〉ことを忘れず、財テクならぬ「時(とき)テク」の中で、ゆったりと共有する時を味わいたいと願いつつ踏み出します。

仲間と共に

K. S.

「今日は私なんか電話に出なかった方が相手のためになったんじゃないかしら」とがっかりしている私に「いろいろな人が、各々の持ち味を生かして相手の人と接点をもつのが、いのちの電話のいいところだと思うわ」とそばにいた先輩が、何本かの電話の後、言ってくださった。何と思いやりと希望に満ちた言葉だろう。悪戦苦闘してこられた先輩達に見習って、私もこの電話を通し社会との接点を持ち、成長するために努力していこうと思います。

電話相談員募集中 <<お問い合わせ先>> 事務局 052-971-5181

ご援助ありがとうございます

1987年9月1日～1987年12月31日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共にご報告申し上げます。

名古屋いのちの電話
理事長 相馬信夫
財務委員会

賛助会員(A)

青木恵子	木本将子	豊田英三	小沢川義孝	菅原美智子	芝原ゆかり	三光堂雪の聖母幼稚園	江カトリック教会	名古屋学院大学宗教部委員会	宇佐津高伊荒鈴山	佐田藤川木田	西沢田	保敏卓邦倫浩一	子夫司彦子郎二治	木田畑大布施内須牧	島中橋田藤田岡	正健恒さな静恒	司郎孝子弘代夫	西豊森田佐々長秋北	沢田中木岡重	信園茂雅武利郁	正子也子昭貞殉子	高豊田長本松芝豊	本田理恵・井田岡原田	紀寿・健慶江	子彰潤次進次美	
三光堂	雪の聖母幼稚園	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会
名古屋学院大学	中国料理新名	聖霊修道院	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会	カトリック教会

賛助会員(B)

横井洋子	岡部美奈子	小室佳子	中野嘉ウタ	比原久和	菅々木敏	日本キリスト教団金城教会青年会	今岡河森戸小初森山	井田村崎田幡井口	謙喜久康好美英ひさ榮	吾江子宣子理夫子三	山福松森加平八鈴有	田田山谷藤田木木田	久忠昌明節一富信	子徳司幸宏子江子子	兼河今神服背生福杉	田津井戸部山田島山	智百文一武和シ舞	彦合子子雄玄夫ズ一	鎌前桑直安金斉斉竹	倉田山井藤子藤藤村	勝栄敦知紀すみ延絹	子子子子子子子子子子	稲松金服杉岩柴内高	村井森部東田田柱橋	豊らイ美子子子子子子
------	-------	------	-------	------	------	-----------------	-----------	----------	------------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	-----------	------------

賛助会員(C)

梅沢武後細加細土長武三平	晴智茂田藤江方沼田輪野	美子子子子子子子子子子	杉山帆志常高堤池小渡小	一・睦球寿田佳菜晴猛守充	子子子子子子子子子子	高小鬼田岩伊藤浜河五	橋林頭中本藤井野原藤	栄登明テ康房正博昭	一子枝枝子子勝子子子	杉樋鈴湯堀長松飯横竹	浦田木瀬田坂田塚井昭原	千嘉久美宏節一重五・鴻子とよ	夫光野知子子子路郎子	新西長三中小松山山大	家沢倉島島川田本竹	恵み久澄紀マリ武妙敦	子き子子子子子子子子子	田勝増戸魚森勝村武岩	中野田田住股井嶋佐	あさ新伊浩咲か須惠敏	子直次助子子ね子子志
--------------	-------------	-------------	-------------	--------------	------------	------------	------------	-----------	------------	------------	-------------	----------------	------------	------------	-----------	------------	-------------	------------	-----------	------------	------------

法人会員

株式会社同発

寄付(個人)

榎本久美江	楠森夕イ代子	金山正チ子栄子	渡辺純昭	中山林橋須石古相	村倉賀田賀馬	三たか溢す貞順信	郎枝子子子子子子	藤西生服D.C.Rumme二匿	田沢川部村名	紀信和みや子望	美正子や子子子子	佐々木藤口下永山	さ秀つや子子子子	と子子子子子子子子	長土小戸長奥	岡田出田野村	利Tina八重子士一代	内中寛山飯服	川村口塚部	正三み幸三千子	邦郎つ男子子
-------	--------	---------	------	----------	--------	----------	----------	-----------------	--------	---------	----------	----------	----------	-----------	--------	--------	-------------	--------	-------	---------	--------

寄付(団体)

知立カトリック教会 名古屋名城ライオンズクラブ ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 金沢聖霊修道院
カトリック平針教会 聖心会本部修道院 名古屋ソントクラブ柴田道子 カトリック神言修道会代表石橋泰助

— NTTのご協力を得て —

＝県内公衆電話ボックスにステッカー貼付＝

このほどNTT東海総支局のご厚意により、愛知県内の公衆電話ボックスに「名古屋いのちの電話」のステッカーを貼付できるようになりました。

名古屋いのちの電話の存在をひとりでも多くの悩める人に伝えたい、との願いに強力な伝達手段を提供していただいたことは、誠に有難く、紙上を借りまして厚く御礼申し上げます。現在県下1,700ヶ所に貼らせていただきました。

— 事務局だより —

開局当初より事務局長としての重責を果たしてこられました小川義雄さんと主事の佐藤加恵さんが退職されました。今後のおふたりのご活躍をお祈りいたします。

1988年1月より新事務局長に笠井康助さんが就任いたしました。YMCAでのご経験を生かし、ご活躍いただけることを期待しております。

— 名古屋いのちの電話日誌 —

- 10月12日(月) 運営委員会
- 16日(金) 財務委員会
- 19日(月) 世話人会
- 20日(火) 近畿・東海ブロック統計担当者会
(於・京都)
- 26日(月) 訓練委員会
- 11月2日(月) 全国研修会(於・東京)
- 4日(水)
- 6日(金) 継続研修会を考える会
- 9日(月) 運営委員会
- 13日(金) 財団法人丸紅基金助成金贈呈式
- 15日(日) 近畿・東海ブロック訓練担当者会
(於・名古屋)
- 16日(月) 第3期生認定委員会・世話人会
- 17日(火) 遠藤周作・公開講演会
(於・名古屋市公会堂)
- 24日(火) 第3期生認定式
- 25日(水) 理事会
- 30日(月) 訓練委員会
- 12月12日(土) 親睦会
- 14日(月) 運営委員会
- 21日(月) 訓練委員会

【MEMO】

ポカポカ陽気に誘われて、芽を出したチューリップの球根が、2月の雪にとまどっている此の頃です。

皆様のご協力を得て今ここに第10号を無事おとどけすることができました。少ないメンバーで頭をつきあわせ、四苦八苦し、やっとこの日を迎え、ひと安心したところです。

名古屋いのちの電話

〒451-91 名古屋東郵便局私書箱 第257号
事務局 ☎052-971-5181 郵便振替口座 名古屋 1-53758

1988年2月1日 発行
発行人 相馬 信夫
編集人 広報委員会